

## 男女共習、選択授業における指導法の工夫

## ～ジグソー法を取り入れた学習活動～

## 広島県立高陽高等学校

全児童生徒数	709名 (男子 308名 女子 401名)
全クラス数	18クラス(各学年6クラス)
TEL	082-842-7781

## 1 課題と目的

課題：生徒の主体的、協働的な課題発見解決につながるような生徒同士の対話が生まれる指導法の工夫

目的：運動好きの児童生徒の増加につながる、効果的な指導法の開発

## 2 主な取組の内容

- 3年生、男女共習による選択授業の単元(バドミントン、全15時間)で実施。
- 履修経験、技能、種目選択の際の意欲に差のある集団での展開(男子17名、女子18名)。
- 学習ノートを活用した、主体的、協働的な課題発見、解決型学習での展開。

## 3 取組で工夫したところ

## 1) 誰もが楽しさを味わうためのグルーピングの工夫

- ①選択人数、経験者の数、コート数からグループ数を決める。
- ②技能チェックを基に持ちポイントを生徒が自己申告した後、性別も技能レベルも多様なグルーピングになるよう調整する。

## 2) ジグソー法

- ①【自分達のわかる、できるを意識化する】「単元終盤の団体戦で皆が楽しさを味わうためには」という問いに対して、どんな練習が必要かまずはチームで課題意識を持つ。
- ②【エキスパート活動で専門家になる】チーム練習の計画、進行役を輪番で担当(自分で調べ、経験者と連携して内容を計画、進行)
- ③【ジグソー活動で現状をメタ認知する】チームを越えた交流試合や、交流ミーティング

を行い、これまでのチームや自己の取組や現状を分析する。

## ④【チームに戻り、取組を改善する】

本番の団体戦に向けての目標や、今後の取組計画を修正し、再び取り組む。

## 3) 生徒全員がゲームを楽しめる試合の行い方、ルールの工夫

- ①車いすバスケのように、団体戦の対戦オーダーそれぞれに、技能チェックを基に決めた持ちポイントの範囲(カテゴリー)を設定。
- ②範囲内同士の対戦でも相手とポイント差がある場合、コートの広さに差をつけるコートハンデを設定。

## 4 成果と今後の課題

事前・事後アンケートや教師の見取りから、今回の実践で生徒が体育の見方・考え方を働かせた主体的、協働的な課題発見解決学習を實踐でき、体育の授業、スポーツを好きな生徒を増加させることができたといえる。具体的には、

- ・グルーピングの工夫により、スポーツを「する」以外の楽しさづくり、多様性を認める集団づくりにつながった。
- ・ジグソー法を用いることで、責任感や、チームへの愛着が生まれ、より深い学びとなった。
- ・試合の行い方、ルールの工夫により、実力差がある生徒同士でも拮抗した試合が展開できるので、劣等コンプレックスの低減、多様な楽しみ方、パラスポーツ、生涯スポーツ的視点の獲得につながった。

今後の課題としては指導と評価の一体化に向け、育みたい資質能力の明確化、他種目、他領域での実践法の研究などが考えられる。



各チームミーティング(毎回導入、まとめに実施)の場面



ジグソー活動(他チームとの交流試合)の場面



ジグソー活動(チームリーダー同士でのミーティング)の場面